

報で中学生の昼食についての調査結果について報告する。昼食の形態は数からみると

- (1) 家庭よりの持参弁当
- (2) 帰宅昼食
- (3) 弁当+部分給食
- (4) 外食（校内外の売店其他で購入して食べるもの）
- (5) 完全給食

の順である。内容を便宜上主食、副食に分けてみると、主食は(1)、(2)、(3)の場合従来の飯が農業率の増加と一致し、パン食は逆の比率である。(4)と(5)は殆ど100%パン食である。副食では(1)と(2)では動物性食品は(1)にやや多いが動、植のバランスからは(1)の方がすぐれている。(3)は無いよりましであるがあまり期待をかけて弁当の質を落す危険がある。(4)は低農業地域に集中し昼食中最も質の悪い単純食である。(5)は昼食中最も質の良いものであった事は当然であるが普及率が極めて少ない。

通観すると中学生の昼食は依然として在来の習慣食の形態にあるものが大部分を占め約半数は栄養上アンバランスを示す。しかし郡部に普及しはじめた給食は昼食の向上に寄与しているものと思われ、一層の普及を望むものである。

* 2. 広島県における食習慣の実態（第3報）

広島大学 鏡本 温美

広島県内の全公立中学校生徒 130,422 人の中より副次抽出の考えに基き層別任意抽出法で得た 958(人)の sample につき、食習慣調査を行った。その結果は第1、第2報として中四国支部総会に発表した。今回はその続